

3 平成 30 年度 発掘調査の成果

◇トレンチ1では、堀切 A と土塁（石塁）A の基盤とみられる部分を検出しました《写真1》。土塁と堀切が組み合わさり、南北へ伸びていたと推定されます。

⇒柏木城跡東端部と、南側の山斜面との間を堀切と土塁で遮断することで、戦をしていた伊達政宗の軍勢の侵攻を防ごうとする意図がうかがわれます。

◇トレンチ2では、堀切 B と土塁 B の基盤とみられる部分を確認しました《写真2》。

⇒曲輪4切岸から延びる豎堀・堀切と土塁が、現道近くまで伸びているようです。

◇堀切 A・土塁（石塁）A と、堀切 B・土塁 B が「くい違い」となっており、現道（赤点線）がその間を折れ曲がっていることが確認されました。

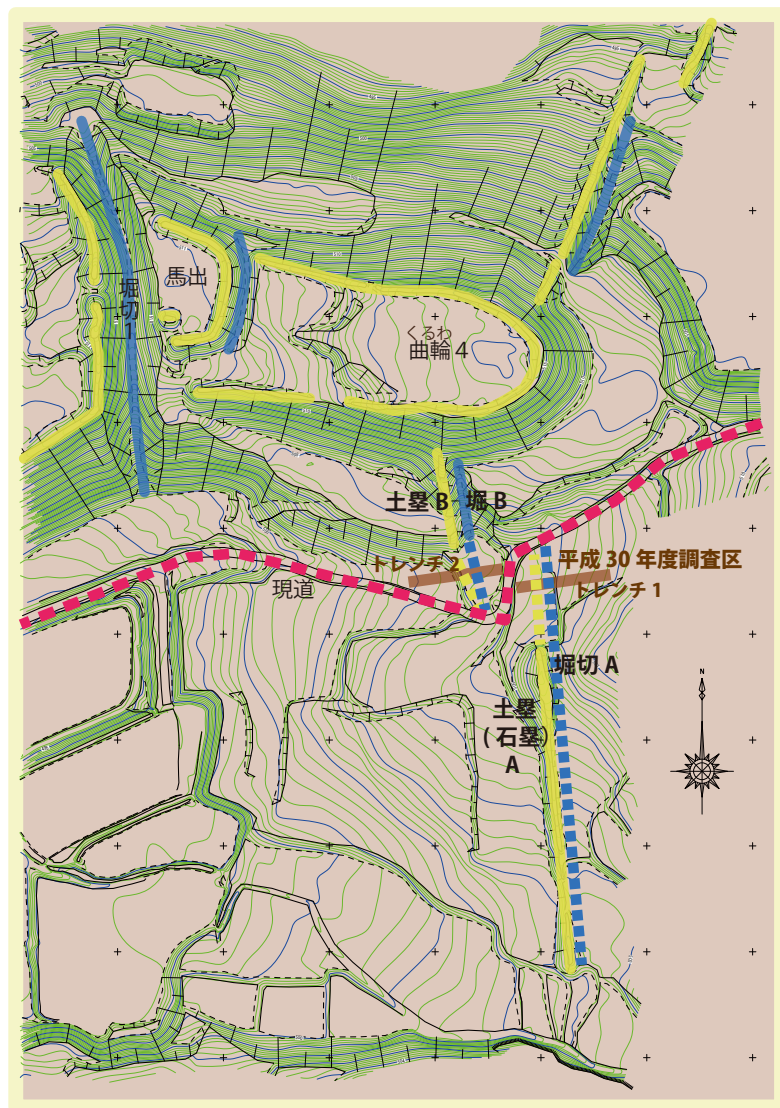
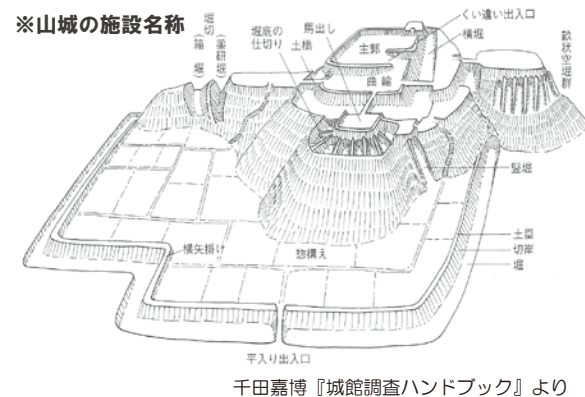
⇒現道が戦国時代柏木城の遺構に規制されていることから、この道が、柏木城に伴うものであり、道筋も当時からほとんど変わっていないものと思われます。

⇒堀・土塁で挟んで「くい違い」状の出入口とし、細く複雑化することで、道を往来する人の監視や防御性を高めたものと考えられます。

⇒柏木城跡主郭周辺の土塁が、南側に手厚いのは、この道を意識してのことと思われる。

☆これまでの調査で、会津の蘆名氏が、戦争中の伊達氏の侵攻を防ぐために、米沢に通じる幹線道路（米沢道、後の米沢街道）を柏木城内に引き込み、様々な工夫をしている可能性を指摘できるようになりました。

☆柏木城跡は中世会津蘆名氏の城づくりや、城と道を組み合わせた領国防衛の考え方を知る手がかりとなる重要な遺跡であるといえます。



平成 30 年度

柏木城跡 発掘調査 現地説明会

1 柏木城跡とは・・・

柏木城は戦国時代の終わり頃、会津の蘆名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐために造られたと伝えられています。天正 13 年 (1585) の伊達政宗の松原略取からはじまった会津侵攻の際、大塩に城があったという記述があり (政宗記)、今からおよそ 430 年前頃には存在していたとみられます。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口 (虎口) や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。



2 発掘調査の目的

北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や江戸時代の米沢街道、鉾山跡などの歴史的な遺跡群を、将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成 20 年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

平成 26 年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるため、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て発掘調査をはじめました。発掘調査は今年で 5 年目となります。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村では将来的に国の史跡指定を目指しており、指定に向けて、文化庁・福島県教育委員会文化財課のご指導も受けています。

北塩原村教育委員会 《平成 30 年 10 月 21 日発行》

〒966-0402 北塩原村大字大塩字下六郎屋敷 2134 番地

電話 0241-23-5236

《柏木城跡は私有地です。見学の際はマナーを守りましょう。》